

「QBオンラインCBT」と ノートアプリで 弱点を克服!

N大学 R.Yさん
CBT: 4年生8月
勉強開始: 3年生秋から
勉強期間: 11ヵ月間コツコツと

1. スケジュール

●3年生秋～4年生夏

この1年間、臨床医学の講義がありました。3年次はほぼ毎週、4年次はまとめて7月末に修了試験があるのですが、「QB オンラインCBT」(以下「QB CBT」)の問題も出題されるため、**試験前日に試験範囲にあたる「QB CBT」の箇所をさっと解いておきました。**授業内容の復習や過去問対策もする必要があったため、あまり「QB CBT」にかける時間は取れませんでした。4年生の夏休みが思ったより短いことに気づいてからは、2～3周はやるようにしていました。

●直前期(4年生7月後半～)

修了試験がすべて終わり、この時点では以下の状況でした。

- ・メジャー科: 3年次に1周しただけ。
- ・マイナー科: 4年次に2～3周やっていたいぶ仕上がっている。
- ・診療の基本、基礎医学、4連問・多選択肢: ノータッチ

6月のMEC模試を受けてみて、多選択肢問題は臨床編をしっかりとやっていたら十分対応できる、と感じていたため、**直前期は臨床編と基礎編に絞って**学習を進めました。

また、8月に入ってからは、知識の総確認と4連問形式に慣れる目的で**最新問題を2周**やりました。

2. 直前期の勉強法

7月の終わりから8月中旬まで部活の合宿や東医体があり、あまり勉強時間が取れなかったため、とにかく短時間で効率よくできる「QB CBT」を駆使して勉強に取り組みました。

①「QB CBT」をスマホで解く

移動時間やちょっとした空き時間を利用してとにかく解きました。「QB CBT」には、問題ごとに○、○、△、×をつけられる機能が備わっています。絶対間違わないという自信のある問題には○をつけて、二度と見なくて済むようにしました。

1科目分終わったら、**間違えた問題(×がついた問題)だけをもう一度やり直す。**答えを覚えているので大抵の問題は○になります。

その後、**翌日などに時間をおいて、再度○と×の問題をやりました。**ここでも完璧と思った問題にはどんどん○をつけていきました。

理解が甘い問題はここでも×になるので、×になった問題と解説をスクリーンショットに撮りました(1科目あたりだいたい5～15問程度でした)。

②タブレットとノートアプリを使って間違えた問題のまとめノートを作る

先述の問題・解説のスクリーンショットをタブレットに送り、ノートアプリにまとめました。『病気がみえる』や『レビューブック』、インターネットで調べたこともノートに貼り付け、適宜手書きでメモを加えました。ノートを作るべき問題を①でかなり絞ってあるため、**一問一問、自分の納得がいくまでじっくりと取り組む**ことができました。また、問題数が少ないので、試験に向かう電車の中や、当日の休み時間などでの最終確認でもざっと見通すことができ、役立ちました。

CBT対策はすべてを完璧にやろうとすると膨大な時間が必要になり、結局間に合わなくなってしまう可能性もあります。**しっかりと学習すべき問題と、そうでない問題を見極め、効率よく学習を進めていくのが合格への鍵**かと思います。

※ Web版では実際のノートアプリ画面も紹介しています!

先輩た
CB
体



『病気がみえる』 『レビューブック』の 併用でまんべんなく

F大学 エリカさん
CBT：4年生冬
勉強開始：4年生秋から
勉強期間：3か月くらい
得点：86%

CBTのコツは、あまり深く考えず、第一印象で素直に答えることだと思います。授業で必ず取り上げられるメジャーな疾患がたくさん出て、浅くてもいから広範囲の知識が求められていると感じました。基礎、メジャー、マイナー、社会医学とどれもまんべんなく出るので、得意不得意を作らず、**とにかくまんべんなく勉強する**のがいいと思います。全体的には、治療法を問う問題は少なく、主に検査とか、まず面接で聞くべきことなどが多く問われていました。

時期別に何をしていたらよかったか、反省を含め書いていこうと思います。

●4年夏

2、3年次に学習した基礎医学（生理・生化・解剖・発生など、既に忘却の彼方であるもの）の復習をしておく、直前に焦らなくていいと思います。臨床と関連のある分野が出ている感じだったので、**臨床で出てきたときにわからなかったことを逐一復習**していく習慣が大切だと感じました。

基礎は試験前1週間とかで対策を立てられるものではないので、日頃の講義を自分なりに整理して理解しながら能動的にこなすのが一番だと思います。

●4年秋

「QBオンラインCBT」(以下QB CBT)を解き始めました。「QB CBT」のよいところは、問題に関連する解説がしっかりついていて、これは全体のここ!といったように**全体像がつかみやすい**ことです。

私は学校の臨床教科の定期試験で『病気がみえる』を使っていたので、『病気がみえる』に対応している「QB CBT」では、**同じ図版を何度も見ることができ、記憶に定着しやすかった**です。

また、『レビューブック』(以下『RB』)の対応ページが書いてあるので、「QB CBT」の問題にでてくるものを『RB』にラインを引いたり書きこみしたりしていくと、『RB』が**まとめノートの役割を果たして**、テスト直前には『RB』を見直すとかかなり役立ちました。特に『RBマイナー』はよかったです!

●1か月前～2週間前

1か月前に「QB CBT」を3回終わらせ、2週間前に「QB CBT」の最新問題を終わらせました。

●前日まで

公衆衛生など、直前で大丈夫なものをやりました。

●当日

目が疲れるので、目薬を持っていくことをおすすめします。

成績は得点率86%で、学校内の順位は10位でした。テストが終わった直後は6割あるかなと不安だったのですが、採点削除問題がたくさんあるので意外と得点率は悪くありませんでした。

日頃の授業を大切に、まじめにやっていたら大丈夫だと思います。

ちの T 験記